

会 議 録

会 議 名	第25期小金井市公民館企画実行委員の会議 第18回		
事 務 局	小金井市公民館 緑分館		
開 催 日 時	令和2年1月7日(火) 午前10時～11時30分		
開 催 場 所	小金井市公民館 緑分館 学習室A		
出 席 委 員	大島委員、大野委員、東委員、長坂委員、横須賀委員、杉井委員		
欠 席 委 員			
事 務 局 員	岡本主任、山本非常勤		
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	なし
会 議 次 第	1 報告事項 (1) 子ども体験講座「自然の素材でつくる！クリスマスリース作り」 (2) 高齢者学級 2 協議事項 (1) 来年度事業 ・成人大学講座 ・成人学校 3 その他 (1) 日程の確認について		

会議結果(要旨記録)

司会：大島委員

1 報告事項

(1) 子ども体験講座「自然の素材でつくる！クリスマスリース作り」

大島委員：企画実行委員会を始める。

岡本分館長：例年実施している事業で、今年で8年目となる。リピーターの方も多かった。参加された方は満足されたと思っている。

東委員：良かったと思うが、作る見本があったらもっと良かったと思う。

岡本分館長：公民館事業は5年を目途に見直しをかけることとなっており、クリスマスリース作りは8年を経過した事業であることから、来年は見直しをしていこうと考えている。

横須賀委員：なぜ見直す必要があるのか。

岡本分館長：公民館事業の目的の中には、最終的に地域に還元できる仕組み作りというのがある。これは、最初は公民館が主催となり講座を開催するが、いずれ市民の方が中心となって講座を開き、地域のつながりにつなげていただきたいという考えである。職員側とすれば、毎年同じ講師にお願いし、何年も何十年もやっていけるのは調整がしやすくトラブルも少ないためやりやすいが、それだと新しいことができなくなる。そのため、社会の状況やそのとき注目されている事項を取り入れていくためにも、一定の時期で事業の見直しを行っている。

横須賀委員：ただ、公民館が事業を終えてしまうと終わってしまうものもあると思う。その辺で続けていくものもあってはよいのではないか。

岡本分館長：そのご意見は正しい。ただし、毎年同じことを繰り返すだけならば、企画実行委員という制度はいらなくなってしまう。企画実行委員の皆様と話し合いをして事業を構築しているのは、毎年、事業の見直しをしていく必要があるためである。ただ、人気のある講座であれば継続もしていきたいため、一定の期間を考えており、それが5年程度と考えている。

杉井委員：子ども体験講座は毎年見直しをしてきたのではないか。

岡本分館長：クリスマスリース作りについては、内容も講師も同じでやり続けた事業である。他の事業は、講師が替わったり、内容を変えたりして対応をしてきている。

杉井委員：講師を替えたならクリスマスリース作りをやってもよいのか。

岡本分館長：企画実行委員の皆様が、子ども体験講座でクリスマスリース作りを続けたいと言われるのであれば、それは考えていきたい。

大島委員：我々が、来年、公民館事業をどうしようか検討する際に「今年はリースをやったから、来年は別物をつくろう」と考えていく必要があるということでしょうか。

岡本分館長：そのとおりである。

長坂委員：よい講師であれば、年々やっていくことで参加人数も増えていくからよいのではないか。

岡本分館長：言っていることはよくわかるが、良い講師であればリピーターも増えるので自然と参加者数は増える。しかし、公民館は人気の講座だけをやればよい場所ではない。参加人数が少なくても、社会教育の中で必要なことであれば実施する必要がある。我々としては、人数だけにこだわらず、企画実行委員の皆様と話し合いの中でそのとき必要な講座を実施していくことを心掛けている。

杉井委員：講師は市民であったほうがよいのか。

岡本分館長：そこまで制限をもうけてはいないと思う。

杉井委員：講座は5年同じのをやらないといけないのか。

山本非常勤：そうではない。毎年見直しをしても問題ない。

杉井委員：事業は職員主導で決めているように感じていた。

山本非常勤：毎回、事業について企画実行委員会に諮り、了承を得たうえで実施をしている。ただ、今まで人気の講座だと、そのときの担当者から「今回の講座は人気があったため、来年も実施してよいか。」と確認をすると、異論等なく了承されてきた。そのため、同じ講座を続けていたことはある。

横須賀委員：子どもは成長していくので、対象が1年生であれば参加する子は代わるから、同じ事業を続けても良いと思う。

岡本分館長：言われている意見は理解している。ご理解いただきたいのは、緑分館の課題の一つが事業の硬直化であった。そのため、来年度の事業について、昨年10月から話し合いを行い、全体的に見直しをしてきた。

長坂委員：今回の話は、来年度の子ども体験講座について考えておけばよいのか。

岡本分館長：そのとおりである。内容についてご検討お願いしたい。

山本非常勤：では、高齢者学級について報告する。5月から始まり12月まで全15回実施し、大島委員及び横須賀委員のお手伝いもあり大変感謝している。野外研修の際のけがはあったが、それだけで大きなけがや問題もなく終えられた。アンケートをとると、野外で行きたい場所には「個人で行けない場所」や「工場見学」などがあった。

来年は、大型バスはやめてマイクロバスのみにしようと思っている。理由は、大型バスは

止める場所が課題となっており、集合場所が毎回変わってしまっていた。

岡本分館長：緑小学校に確認をしたが、緑小学校の遠足などのバスは法政大学の前のとおりで待機しており、乗り降りの5分程度だけ停車しているとのこと。新庁舎建設が始まれば蛇の目工場跡地も使えなくなる。そのため、来年度からは、野外研修はマイクロバスをメインにしていこうと考えている。

2 協議事項

(1) 来年度事業

大島委員：次に来年度事業について願うする。

岡本分館長：成人大学講座について、農工大学から連絡が来たので資料として配付した。そちらに記載の内容で実施したいので確認と問題がなければ承認をいただきたい。

「良い」との声

岡本分館長：では、続いて、成人学校の件を報告する。前回の会議で岸講師に依頼を行い、印象派について講座をやってほしいと言われた。それに伴い、講師と連絡をとってみたところ講師となることに同意を得た。この内容でよいか。

「良い」との声

横須賀委員：来年度も同じ先生に頼むこともできるのか。

岡本分館長：企画実行委員の皆様が来年もこの講座を実施しようと考えていただければ問題はない。

長坂委員：連続にしても講座の内容について調整は必要かと考える。

岡本分館長：講師とも調整が必要だと考えるので、連絡をして調整を行う。

3 その他

大島委員：日程を願うする。

岡本分館長：2月1日に都公連があり、2月4日は午後1時から報告会がある。

大島委員：他はよろしいか。なければ本日の企画実行委員会は終了する。

次回の会議 令和2年2月4日（火）午前10時

公民館緑分館 学習室 司会：東委員